

新潟工科大学

新潟工科大学がAP事業で目指すもの

新潟工科大学

発表者・・・飯野 秋成

1 新潟工科大学のAP事業の取り組み体制

本学は、地域産業界の想いのもとに開学した工科系大学であり、「産業界及び地域の発展に貢献できる技術者」を輩出することを大きな使命としています。多様化する本学の入学者の力を最大限伸ばしながら学士としての質保証を図っていくことを目的としています。

AP事業の体制は、学長のガバナンスの下、教育担当副学長が事業担当者として大学改革を推進しています。実働組織として教職協働型の「教育改革加速チーム」は、学長と教育担当副学長の直下に位置し、他部署との協議を経ることなく、迅速で自由度の高い取り組みができる体制となっております。

2 産業界のニーズを反映した取り組み

●企業が求める基礎力の調査の実施

多くの企業が本学で学生と直接交流する「対話型企業技術・要素会」の機会を利用し、企業にアンケートを実施しています。企業が求める基礎学力と社会で活躍するための人間力の回答を業界別に分析し、その結果を用いてAP事業の取り組みを進めています。

●「企業が求める基礎学力到達度テスト」の実施

企業が求める人材を輩出するため、企業への調査結果をもとに工学の基礎となる分野として、数学、物理、及び英語の基礎学力テストを作成し実施することで卒業までの学力変化を可視化しています。

●「人間力セルフチェック」の実施

本学では将来仕事に携わる上で必要な人間力として、「NIIT 人間力」（挑戦力、創造力、コミュニケーション力）を設定しており、学生は各自の人間力を自己評価しています。

人間力の自己評価結果と、企業が求める基礎学力到達度テストの結果を可視化することにより、学生自身が身に着けなければならない力を強く認識できる仕組みとしています。その結果はポートフォリオとして蓄積され卒業まで継続して活用しています。

3 産業化のニーズと学修成果を活用した学生指導の実施

産業界のニーズと可視化した学修成果をもとに、担当教員との面談を通じて、入学した早い段階から産業界や地域の求める人材とはどのような人材なのかを理解しながら、自身の進路を見出すことが可能となっております。

4 学修成果の可視化システム「達成度自己評価システム」のフィロソフィー

ディプロマポリシーとの関連性を明確にし、「達成度」は、人間力、到達度テスト、将来の夢・目標、自己評価、成績など、項目別にレーダーチャートやグラフでビジュアル化しています。そして、レーダーチャートによって自己評価による間接評価と成績による直接評価が対比され、ディプロマポリシーの各項目をどのくらい達成したのかがわかりやすく示されます。自分がどの項目を得意とするのか、また、どの項目が不得意で克服する必要があるのか、学生自身がイメージできるようにしています。学生は達成度自己評価システムで、これら情報によって自分の力を確認しながら、PDCAサイクルによる学びの改善ができるようになっています。具体的には、学期の始めに学びの目標をたて、目標達成に向けた学びを実行し、学期の終わりに学びによって身についた力を確認して、次学期の学びの改善に役立てています。